

令和2年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～					
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー					
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト					
主管課	都市政策部 上下水道課	評価責任者				櫻井 進一	
		評価日				令和3年6月4日	
関連課		環境課					
目標		快適な生活環境のために浸水被害を防止する雨水対策を進めるとともに、生活排水処理の促進を図る。また、既存の下水道施設については、維持管理を適切に行いつつ、老朽化した施設の更新を進める。					
施策目標の実現に向けた取組		<p>(1) 雨水対策の推進及び排水施設の維持管理</p> <p>○都市型浸水被害を防止するため、排水施設の整備を進めるとともに、既存施設についても適切な維持管理やストックマネジメント計画に基づき修繕を行う。</p> <p>○県で進める河川の洪水防止のための雨水浸透マス設置事業について、住民説明会の開催などに協力する。</p> <p>(2) 生活排水処理の促進</p> <p>○市街化調整区域での排水処理を促進するため、下水道管の整備区域を拡大するとともに、合併処理浄化槽への転換などの手法を検討する。また、市街化調整区域の整備計画及び受益者負担金の明確化を図るとともに、受益者の理解を得ながら下水道整備を進める。</p> <p>(3) 下水道事業の経営基盤の強化</p> <p>○長期的な財政計画を策定し安定的に事業を進める。</p>					

2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策 目 標	指標 1	指標名	雨水浸透施設等の設置					
		説明	都市型浸水被害の軽減を図るため、西鶴ヶ岡に雨水貯留浸透槽（浸透貯留量約300㎡）、令和元年度から2年度にかけて亀久保大野原に調整池（貯留量約10,800㎡）を整備したことにより、計52箇所となった。					
		単位	箇所					
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	49	50	51	51	52	53
		実績値	49	50	52			
	指標 2	指標名						
		説明						
		単位						
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						
	指標 3	指標名						
		説明						
		単位						
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						
	指標 4	指標名						
		説明						
単位								
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							
指標 5	指標名							
	説明							
	単位							
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	1,962,149	2,076,657	2,109,061	2,087,883		
	人件費	72,502	78,244	75,646	77,821		
収入	特定財源	1,606,057	1,767,044	1,765,242	1,737,891		
	一般財源	428,594	387,857	419,465	427,813		

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	貯留浸透施設設置数	近年の降雨は集中豪雨化する傾向にあり、本市においても都市型浸水被害が発生していることから、被害の軽減に効果的な地域に、雨水流出抑制を目的とした調整池及び遊水地の整備、並びに雨水浸透施設の設置を進めている。	西鶴ヶ岡においては5基目となる雨水貯留浸透施設を設置したことにより、約1,500㎡の貯留能力を確保したことから、周辺地域における道路冠水等の浸水被害の軽減効果がみられる。亀久保大野原においても道路冠水等の浸水被害の軽減が図られている。	雨水関連事業
取組②				
取組③				
取組④				
取組⑤				

5. 評価

		評価
指標の達成状況	順調	近年の異常気象による集中豪雨や大型化する台風に伴う大雨により、本市においても住家への浸水や道路冠水などの都市型浸水被害が発生していることから、浸水被害の軽減を図るため、雨水流出抑制に効果的な地域に調整池等の整備、及び雨水貯留浸透施設の設置を積極的に進めている。 整備事業の推進により、浸水被害については一定の軽減が図られていると認識しているが、従来想定していた降雨量を大きく上回ることもあり、浸水被害を完全に防止することは難しい状況である。また、経年により老朽化した施設や污泥等が堆積した施設もあることから、適切な維持管理が求められている。 こうした状況を踏まえ、重点プロジェクトに掲げられている「強靱なまちづくりプロジェクト」による、市民が安心して暮らせる環境をつくるため、雨水流出抑制に効果的な箇所への新たな調整池の整備、雨水貯留浸透施設の設置に取り組むとともに、既存施設においては適切な維持管理を徹底することにより、雨水貯留量を確保する必要があると考えている。 今後についても、国の各種財政支援制度を積極的に活用したハード対策を継続しつつ、雨水監視体制等のソフト対策についても充実を図るとともに、国や県及び近隣自治体との連携による都市型浸水被害対策を推進する。
行政資源の活用	適切	
取組の有効性	有効	
施策の効果	効果が得られている	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		下水道事業管理等事務	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目				
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	大塚 昌利
事務事業期間		昭和50年度～	評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		下水道法、地方公営企業法、ふじみ野市水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例、ふじみ野市下水道条例、ふじみ野市下水道事業経営戦略		
事務事業の内容	事務事業の目的	生活環境の改善、雨水の排除及び公共用水域の水質保全を図り、快適で安全な市民生活を確保するため、計画的・効率的な事業経営に取り組むことを目的とする。 また、下水道事業の健全運営に資するため、事業経営の基礎となる下水道使用料を適正に収納する。		
	事務事業の経緯	下水道事業は、平成28年度から水道事業と同様に地方公営企業法の全部を適用する地方公営企業となり、市長部局から独立し、独立採算が求められている。地方公営企業として適正な予算及び出納事務を実施し、併せて継続的に安定的な経営を維持する。		
	事務事業の概要	的確な下水道事業の予算編成、決算書作成及び執行管理を実施し、適正な会計処理を行う。 なお、下水道使用料の賦課徴収に関する業務については、水道事業に委託している。		
	令和2年度の主な取組	下水道事業の予算編成、決算書作成及び執行管理を実施し、適正な会計処理を行うことにより、経営の安定を図った。 令和2年第3回定例会において、公共下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例の議決を得た。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	3.80	3.53	3.80
		人件費	31,989	28,442	30,617
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
人件費計		31,989	28,442	30,617	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	118	672	1,388	
	委託料	159	82	147	
	使用料及び賃借料	1,091	1,101	1,348	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	660,241	721,142	729,088	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	1,029,168	1,004,712	996,796	
支出合計		1,722,766	1,756,151	1,759,384	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	1,393,832	1,335,572	1,337,162
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	61,750	123,800	105,800
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		267,184	296,779	316,422	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		2,336	2,553	2,762	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	当年度純利益（純損失）額		
	説明	収支状況を表し、収益から費用を減じた事業活動の最終的な収支状況を表す指標。 ※この数値がプラスであれば純利益、マイナスであれば純損失が生じている。		
活動	単位	千円		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	160,765	51,042	49,617
	実績値	185,716	204,272	
指標 2	指標名	経常収支比率		
	説明	経常費用が経常収益によって、どの程度賄われているか収益性を表す指標（経常収支比率＝経常収益/経常費用×100）。 ※この比率が100%以上である場合、収益で費用を賄うことができている、経常利益が生じている。		
成果	単位	%		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	111.26	103.33	103.23
	実績値	112.79	113.88	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>下水道事業の予算編成、決算書作成及び執行管理を実施し、適正な会計処理を行うことにより、経営の安定を図った。</p> <p>また、令和2年第3回ふじみ野市議会定例会において「ふじみ野市公共下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例」を提案し、市街化調整区域の公共下水道未普及地区における公共下水道の整備に伴う当該区域の受益者負担金の単位負担を定めるための議決を得た。</p>
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	生活環境の改善、雨水の排除、公共用水域の水質保全を目的に下水道事業の運営を行っている。下水道事業は、平成28年度から地方公営企業法の全部を適用する地方公営企業となり、市長部局から独立し独立採算制を原則としていることから、「ふじみ野市下水道事業経営戦略」に基づき、今後も持続可能な経営を維持する必要がある。
中長期的方向性	市街化調整区域における受益者負担金の新規賦課及び徴収事務が円滑に行われるよう、対象地区住民に対する受益者負担金制度の周知及び啓発を図っていく。
継続	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		下水道施設管理・整備事業（污水）		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー			
予算費目					
所管部課		都市政策部 上下水道課		評価責任者	高橋 昌巳
事務事業期間		昭和50年度～		評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等					
事務事業の目的		下水道施設の良好な機能を維持する。			
事務事業の経緯		市内の公共下水道（污水）は、都市計画法、下水道法に基づき、整備区域拡大を図ってきた。また、過去に整備してきた公共下水道施設の老朽化が進んできていることから、下水道法令や経営戦略との整合を図る。			
事務事業の概要		①下水道施設の日常的な管理運用と計画的な保守点検を行い機能を維持する。 ②水質検査を計画的に実施し、利用者に対し適切な排水指導を行う。 ③埼玉県荒川右岸流域下水道の新河岸川水循環センターにて污水を高度処理するための負担金の支払い。			
令和2年度の主な取組		①社会資本整備総合交付金により、管路施設等の維持管理費の平準化を図るためにストックマネジメント点検調査業務を実施した。 ②特定施設や除害施設に対する水質検査を実施し、改善が必要な事業所等に対し排水指導を行った。 ③公共下水道の不明水削減を図り、負担金の低減を実現するため、県が行う不明水対策調査を推進した。 ④公共下水道（污水）整備予定地区への受益者負担金等に関する説明を書面開催により実施し、また、上沢勝瀬線においては実施設計を行った。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.50	1.50	
		人件費	12,627	12,086	
	再任用職員	従事人数(人)	0.20	0.20	
		人件費	658	1,061	
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	
	人件費	0	0		
人件費計		13,285	13,147	13,147	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	15,719	14,487	20,311	
	委託料	42,867	51,735	73,477	
	使用料及び賃借料	248	250	251	
	工事請負費	5,489	0	54,450	
	負担金、補助及び交付金	22	0	831	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	2,801	1,692	4,069	
支出合計		80,431	81,311	166,536	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	11,950	6,640	4,700
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	68,481	69,771	94,536
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	4,900	67,300
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		0	0	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	有収率		
	説明	ゲリラ豪雨等による雨水の流入及び、老朽化した下水道管への不明水の流入により、排水量(不明水)が増加していることから、改修・修繕が、不明水の流入軽減にどれだけ効果があったかを測るもの。		
活動	単位	%		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	84.00	84.50	84.50
	実績値	80.69	82.22	
指標 2	指標名	緊急輸送道路内管路耐震補強事業		
	説明	緊急輸送道路内の下水道管路延長約6.7kmのうち、令和元年度に耐震補強判定延長約36mの管路耐震補強工事を行っている。 ※本指標については、令和元年度に完了している。		
活動	単位	m		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	34	0	0
	実績値	36	0	
指標 3	指標名	下水道普及率		
	説明	行政区域内の公共下水道（汚水）の普及を促進するため、未整備区域の解消を図る必要がある。		
活動	単位	%		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	94	94	94
	実績値	94	94	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>【ストックマネジメント計画】</p> <p>令和2年度社会資本整備総合交付金による点検調査業務を約19km（管口テレビカメラ点検工482基、マンホール目視調査工305基、マンホール蓋点検工787基）実施した。効果としては、大規模修繕箇所は発見されなかったため、公共下水道の経営戦略において更新計画を上方修正できるようになった。</p>
	<p>【未普及地区の対策】</p> <p>市街化調整区域内の公共下水道（汚水）未整備地区のうち、大井・苗間、駒林、川崎地区において、公共下水道の整備方針や受益者負担金算定方法、及び負担単価について説明を書面により実施した。また、未整備地区の下水道事業を進めるにあたり、都市計画法及び下水道法に関する法手続きを行った。これにより対象地区への公共下水道の拡大整備について周知することができ、また、実施設計を進めることが可能となった。</p>

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	公共下水道施設の日常の安全点検を確実に行うことにより、施設の損傷を早期に発見し改善するとともに、引き続き県や関係市町と協力して不明水対策調査に取り組む。また、管路等施設のストックマネジメント実施方針により、維持管理業務の効率化を図るとともに、維持コストの平準化により経済的な維持管理業務に資する。さらに、ストックマネジメント計画調査を継続しながら、緊急度の高い施設を必要に応じて改築又は更新を実施することにより、安全・安心な下水道施設を維持する。
中長期的方向性	
拡充	市街化調整区域の未普及対策については、大井・苗間、駒林、川崎地区の都市計画法・下水道法の法手続き後に実施設計及び管渠築造を随時進めていく。

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		下水道施設管理・整備事業（雨水）	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト		
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目				
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	高橋 昌巳
事務事業期間		昭和50年度～	評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		都市計画法、下水道法、下水道ストックマネジメント基本計画		
事務事業の内容	事務事業の目的	浸水被害の軽減を図るため、雨水浸透貯留施設等の整備を促進するとともに、適正な施設の維持管理を行なう。		
	事務事業の経緯	平成22年度から平成27年度まで福岡江川排水区の雨水幹線を整備するとともに、平成27年度から平成29年度までに大井武蔵野地区に2基の雨水調整池を設置した。令和元年度には亀久保大野原地内に3基目の雨水調整池を整備するために事業用地の全部を取得するとともに工事に着工したが、同年東日本台風に伴い令和2年度へ繰越した。		
	事務事業の概要	台風や集中豪雨により雨水浸水実績のある地区を優先として、雨水浸透貯留施設の整備を促進する。また、富士見市との協定に基づき砂川堀第2雨水幹線の維持管理を定期的に行う。		
	令和2年度の主な取組	①建設改良繰越しとなっていた亀久保大野原調整池③築造工事が、令和2年7月末に完成した。 ②富士見市との協定に基づき砂川堀第2雨水幹線の維持管理として除草等を定期的に行っている。また、同市との覚書に基づき砂川堀雨水幹線(流域)との合流点付近に、同市発注によるバランスウエイト式フラップゲートが令和2年6月に完成した。 ③川越市と共同で内水対策整備を図るため、内水対策施設の整備に関する協定書を締結するとともに、(仮称)川越江川川崎調整池事業予定地の土地所有者に事業計画位置付けの説明を行い同意を得た。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.30	0.30	
		人件費	2,526	2,418	
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	
		人件費	0	0	
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	
	人件費	0	0		
人件費計		2,526	2,418	2,418	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	619	730	583	
	委託料	6,475	11,310	58,269	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	73,025	117,226	2,640	
	負担金、補助及び交付金	0	0	6,400	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	101,026	65	2,061	
支出合計		183,671	131,749	72,371	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	50,122	89,000	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	8,699	49	49,471
		地方債	124,850	42,700	22,900
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		0	0	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	雨水浸透貯留施設整備事業		
	説明	亀久保大野原地内に於いて、貯留量約10,800m ³ の調整池が令和2年7月末に完成した。このことにより、大井武蔵野・亀久保大野原地区に約29,000m ³ の雨水貯留浸透施設が完成したこととなった。		
活動	単位	箇所		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	1	1	0
	実績値	0	1	
指標 2	指標名	ストックマネジメント実施方針簡易版策定事業		
	説明	令和2年7月に雨水管路のストックマネジメント実施方針簡易版を策定し、ストックマネジメント基本計画と整合を図った。		
活動	単位	km		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	0	20	20
	実績値	0	20	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>【調整池整備事業】 令和2年7月に3基目となる調整池③が完成したことにより、大井武蔵野地区および亀久保大野原地区で合計約29,000m³の雨水浸透貯留量を確保した。このため、周辺地区及び下流域での浸水軽減を促進することができた。</p>
	<p>【ストックマネジメント実施方針簡易版策定事業】 延長約22kmの雨水管路のストックマネジメント実施方針簡易版を策定し、ストックマネジメント基本計画と整合を図ったことから、汚水管渠・マンホール・取付管の計画調査を実施できる体制を構築した。</p>

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	浸水被害を防止する雨水対策として、川越市と共同で行う元福岡地区における内水対策事業である（仮称）川越江川川崎調整池関連事業の早期の完成を目指し、必要な法手続きや土質等の調査業務を行っていく。令和4年度に工事実施設計に着手し、用地取得を進め、令和5年度から令和7年度にかけて、調整池及びポンプ場の整備を完了する計画である。
中長期的方向性	雨水幹線等の既存施設についても損傷箇所については早期に修繕を行う。
拡充	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		福岡江川幹線事業		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー			
予算費目					
所管部課		都市政策部 上下水道課		評価責任者	高橋 昌巳
事務事業期間		昭和50年度～		評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等					
事務事業の内容	事務事業の目的	福岡江川幹線の機能保持及び管理の適正化を図る。			
	事務事業の経緯	近年の気候変動による豪雨により、福岡江川幹線に起因した浸水被害が発生してきたことから、雨水の適正排除のための下水道機能を保持し、適切な維持管理を必要としてきた。			
	事務事業の概要	福岡江川幹線の定期的な清掃及び修繕等を計画的に行う。			
	令和2年度の主な取組	福岡江川幹線の定期的な維持管理として沿線の除草等を行うとともに、出水期において樋管付近に臨時用の排水ポンプを設置し台風や集中豪雨に備えた。また、開渠部（谷田橋～水天宮橋）に堆積した汚泥浚渫を行い適正な流下能力の確保を図った。また、令和元年度（谷田橋上流部左岸約65m）に続き、フェンス基礎ブロックの嵩上げを延長約715m（左岸約422m、右岸約271m、橋梁部約22m）実施した。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.80	0.80
		人件費	6,735	6,446
	再任用職員	従事人数(人)	0.20	0.20
		人件費	658	1,061
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
		人件費	0	0
人件費計		7,393	7,507	7,507
事業費	報酬	0	0	0
	賃金	0	0	0
	需用費	252	349	1,391
	委託料	3,668	4,476	6,861
	使用料及び賃借料	0	0	0
	工事請負費	3,497	28,165	10,682
	負担金、補助及び交付金	0	0	0
	扶助費	0	0	0
	その他事業費	0	0	0
支出合計		14,810	40,497	26,441
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	14,810	40,497
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源		0	0	0
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	浸水被害軽減策としての浚渫		
	説明	台風や集中豪雨等の大雨後に、福岡江川幹線の底面に汚泥が堆積し流下阻害をもたらすおそれがあることから、浚渫を実施することにより適正かつ円滑な流下機能を維持し、流域の浸水被害の防止する取り組みを行う。		
活動	単位	m		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	750	750	750
	実績値	120	380	
指標 2	指標名	福岡江川護岸嵩上げ事業		
	説明	令和元年度で実施した谷田橋上流部の江川左岸側における延長約65mの護岸嵩上げに続き、残り延長約716mの嵩上げ工事を完成させた。このことにより、江川からの溢水による水宮地区の浸水被害が軽減する。なお、近接した水宮地区雨水貯留施設工事との取り合いにより延長は減少したが、令和3年度に計画する。		
活動	単位	m		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	65	731	0
	実績値	65	716	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>【浸水被害軽減策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水ポンプ設置 新河岸川と福岡江川幹線の合流部において、出水期間に限定して臨時排水ポンプ（1分当り4m³排水）を2基設置した。このことにより、同幹線の排水機能を適正な状態に維持した。※設置期間 令和2年4月28日～令和2年11月26日 ・浚渫 福岡江川幹線開渠部（水天宮橋～谷田橋間）において幹線底部に堆積した汚泥の浚渫作業を行った。このことにより、同幹線の流下能力を維持し、付近住宅の浸水被害の発生を防止した。※施工延長 L=約380m 土砂処分量 V=約39m³ ・護岸嵩上げ工 福岡江川幹線開渠部（水天宮橋～谷田橋間）の溢水を防止するため谷田橋上流部のフェンス基礎ブロック嵩上げ工事を行った。これにより、左岸側（水宮地区側）については全て嵩上げが完了したため、浸水被害の軽減が図られた。※施工延長約716m（左岸約422m、右岸約272m、橋梁部約22m）
--------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	福岡江川幹線と新河岸川との合流部で、出水期間中、臨時排水ポンプ（8吋2台）の設置を継続して行い、幹線底部の汚泥堆積を監視し、流下阻害防止のため浚渫作業を行っていく。また、施設機能を保全するため除草作業を継続的に実施する。
中長期的方向性	谷田橋から八幡橋の右岸側での護岸嵩上げ工事は、令和3年度において水宮地区雨水貯留施設工事と調整しながら実施する。
拡充	令和3年度から水天宮橋から上流部の暗渠区間について、内面異常の有無を調べる点検調査業務を実施する。

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		江川流域都市下水路（川越江川）維持管理負担金		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー			
予算費目		一般会計 08土木費 04都市計画費 07排水施設費			
所管部課		都市政策部 上下水道課		評価責任者	大塚 昌利
事務事業期間				評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		都市計画法、下水道法、ふじみ野市下水道条例、江川流域都市下水路の設置及び管理並びに住民の利用に関する協定書			
事務事業の内容	事務事業の目的	江川流域都市下水路の排水区域内における下水道接続以外の生活排水（浄化槽処理水）及び雨水を都市下水路に放流することを目的とする。			
	事務事業の経緯	江川流域都市下水路の排水区域内の住民が、当該区域内の生活排水（浄化槽処理水）及び雨水を江川流域都市下水路に放流することができるよう、川越市と維持管理に要する費用について負担割合の協定書を取り交わし、効率的な維持管理を行っている。（ふじみ野市：50.7%、川越市：49.3%の負担割合）			
	事務事業の概要	管理者の川越市が支出する維持管理経費（保守点検等）に対して、負担金を支払うものである。			
	令和2年度の主な取組	管理者の川越市が実施した草刈清掃業務委託及び樋門保守点検委託等の維持管理、施設の老朽化等に伴う保全改修工事の費用及び都市計画決定に係る図書や事業認可設計図書の作成業務委託に対する負担金を支出した。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.10	0.10
		人件費	798	806
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
		人件費	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00
	人件費	0	0	
人件費計		798	806	806
事業費	報酬※	0	0	0
	賃金※	0	0	0
	需用費	0	0	0
	委託料	0	0	0
	使用料及び賃借料	0	0	0
	工事請負費	0	0	0
	負担金、補助及び交付金	30,945	53,446	8,424
	扶助費	0	0	0
その他事業費※	0	0	0	
支出合計		31,743	54,252	9,230
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	0	0
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源		31,743	54,252	9,230
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		277	467	81

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>江川流域都市下水路の管理者である川越市が実施した草刈清掃業務委託及び樋門保守点検委託等の通常の維持管理に要する経費に加え、令和2年度は西沼橋下流区間のフェンス改修工事及び護岸補修工事に要する経費並びに今後の内水対策施設整備の実施に伴う法定図書作成に要する経費に係る負担金の支出を、川越市からの請求に基づき令和3年3月に行った。</p>
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	江川流域都市下水路の適正な維持管理を図るために必要な負担金である。
中長期的方向性	
継続	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		排水施設事業		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー			
予算費目		一般会計 08土木費 04都市計画費 07排水施設費			
所管部課		都市政策部 上下水道課		評価責任者	高橋 昌巳
事務事業期間				評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		地方自治法、下水道法、ふじみ野市下水道条例			
事務事業の内容	事務事業の目的	下水道施設の良好な機能を維持することを目的とする。			
	事務事業の経緯	大雨などで一般下水道施設への土砂等の流入により、排水機能が低下したことで、道路等で雨水滞留が発生した経緯を踏まえ、施設の適正かつ良好な維持管理を行う。			
	事務事業の概要	排水施設等の定期的な清掃及び点検等を計画的に行う。			
	令和2年度の主な取組	富士見市との協定に基づき実施している旧砂川堀改修工事については、平成30年度まで1年間の施工延長を2mとしてきたが、浸水被害の危険を早期に軽減することを目的として、令和元年度から1年間に10mの施工延長を確保したことで、令和2年度においても延長10m、水路幅2mのL型水路を整備した。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.10	1.10
		人件費	8,776	8,863
	再任用職員	従事人数(人)	0.20	0.20
		人件費	769	1,061
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00
	人件費	0	0	
人件費計		9,545	9,924	9,924
事業費	報酬※	0	0	0
	賃金※	0	0	0
	需用費	3,512	8,230	10,696
	委託料	10,294	4,727	21,241
	使用料及び賃借料	103	103	104
	工事請負費	32,492	12,566	38,489
	負担金、補助及び交付金	0	0	0
	扶助費	0	0	0
その他事業費※	2,911	2,717	2,988	
支出合計		58,856	38,267	83,442
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	4,850	4,913
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源		54,006	33,354	53,861
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		472	287	470

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	一般下水道管の洗浄		
	説明	雨水や雑排水の滞留を防止し、円滑に放流するため。		
活動	単位	m		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	350	350	350
	実績値	407	174	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>【一般下水道管渠清掃】 350m管渠清掃を計画していたが、想定を超えた土砂が堆積していたため延長は174mと短くなったが、土砂処分量は設計値以上であったため、滞留の防止を図れた。</p> <p>【旧砂川堀改修工事】 旧砂川堀について、令和2年度においても、施工延長10m整備をしたことから、砂川堀周辺地区の浸水被害軽減対策については、平成30年度以前よりも早期浸水被害軽減の効果発現に向けた取組みが促進している。</p> <p>ただし、今後の課題として、令和4年度の整備完成を予定するに当たり、砂川堀雨水幹線との接続方法や逆流防止対策について、埼玉県荒川右岸下水道事務所と協議し検討する必要がある。</p> <p>【雨水排水路維持管理】 雨水排水路について、除草等の定期的な維持管理を実施したことにより、適正な施設状態の保全と円滑な流下能力を維持したことで、水害や雨水滞留を抑制する効果を維持した。</p>
------------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<p>【旧砂川堀維持管理負担金】 旧砂川堀改修工事は、浸水軽減を早期に図るため、令和元年度から施工延長を10mにして施工してきたため、令和3年度も10m施工を計画し、令和4年度の整備完成を目指す上で、接続先の砂川堀雨水幹線との接続方法や逆流防止対策について、埼玉県荒川右岸下水道事務所と協議を予定する。</p>
中長期的方向性	<p>【排水困難地区の排水対策】 関越自動車西側の亀久保大野原地区に位置する排水困難地区について、排水先確保に向け一般下水道管の整備を実施する。</p>
継続	<p>【亀久保三丁目雨水排水対策】 亀久保三丁目地区の道路冠水被害軽減を目的とした、一般下水道管の整備を実施する。</p>

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名	雨水関連事業		前年度の方向性	拡充
重点プロジェクト	強靱なまちづくりプロジェクト			
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目	一般会計 08土木費 04都市計画費 07排水施設費			
所管部課	都市政策部 上下水道課		評価責任者	高橋 昌巳
事務事業期間	～令和25年		評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等	地方自治法、下水道法、ふじみ野市雨水流出抑制対策取扱要綱			
事務事業の内容	事務事業の目的	雨水の排除に必要な雨水浸透施設の設置、及び機能保持に必要な清掃・点検等を行うことにより、雨水浸水の防止・軽減を目的とする。		
	事務事業の経緯	大雨により市内各地で浸水や冠水被害があった経緯を踏まえ、都市型水害対策として、遊水池や雨水浸透施設などの整備を進めるとともに、開発行為により整備される宅地・道路に対し、雨水流出抑制対策取扱要綱に基づき雨水浸透施設の設置に対する指導を行ってきた。		
	事務事業の概要	浸水被害が発生している地区に雨水浸透施設等の設置を行う。併せて、雨水浸透施設の清掃・点検等を定期的に行う。		
	令和2年度の主な取組	西鶴ヶ岡一丁目雨水浸透槽設置工事については、5基目となる貯留量約300㎡の施設整備を実施した。さらに、同地域において、6基目となる貯留量約115㎡の工事の発注をした。(令和3年6月完成予定。) 水宮地区の浸水被害軽減を図るため、谷田橋付近の福岡江川右岸側において、延長約117mの雨水貯留施設コルゲートフリューム(幅1.8m×高1.0m)を布設する工事を発注するとともに、下流側への放流管として内径350mmの硬質塩化ビニル管を延長約40m整備した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.30	1.30	1.30
		人件費	10,372	10,475	10,475
	再任用職員	従事人数(人)	0.40	0.40	0.40
		人件費	1,538	2,121	2,121
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
	人件費計	11,910	12,596	12,596	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	1,777	1,672	3,163	
	委託料	18,483	16,080	25,618	
	使用料及び賃借料	2,819	2,835	3,511	
	工事請負費	26,768	48,420	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	69	71	2,606		
	支出合計	61,826	81,674	47,494	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	27,700	47,400	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源	34,126	34,274	47,494	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		298	295	415	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	雨水浸透施設等の設置		
	説明	浸水被害を軽減するため、浸透施設等を設置する。		
活動	単位	基		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	51	52	52
	実績値	50	52	
指標 2	指標名	浸透施設等維持管理		
	説明	ゲリラ豪雨等による浸水被害を軽減するため、浸透施設等の機能を維持する。		
活動	単位	基		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	12	12	12
	実績値	15	12	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>【西鶴ヶ岡一丁目雨水浸透槽設置工事】 緑ヶ丘地内の雨水浸水被害を軽減するため西鶴ヶ岡一丁目に5基目となる雨水貯留浸透槽（浸透貯留量約300m³）を設置した。また、6基目となる雨水貯留浸透槽設置工事（浸透貯留量約115m³）について、令和3年台風時期までの整備完了を目指し発注をした。</p> <p>【雨水浸透施設清掃等業務】 雨水浸透井戸の清掃2箇所、遊水池等草刈り7箇所、遊水池等樹木剪定2箇所、親水公園の浚渫1箇所、滝ゲートポンプ室内1箇所の合計11箇所の雨水関連施設について、除草や浚渫清掃を行ったことにより、施設の適正な機能を確保することができた。</p> <p>【遊水池等監視カメラ設置】 遊水池の監視カメラの設置箇所を7箇所から10箇所に増設可能な工事を実施したことにより、新設した調整池等の監視が可能となった。</p>
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	<p>【西鶴ヶ岡一丁目雨水浸透槽設置工事】 昨今、巨大化する豪雨等により、今後も緑ヶ丘地内の雨水浸水被害の拡大が懸念されることから、西鶴ヶ岡一丁目雨水浸透槽の効果を見極めながら雨水浸透槽の整備方法について検討する。また、緊急自然災害防止対策事業債拡充の動向にも注視しながら、効率的な事業を研究する。</p>
中長期的方向性	<p>【遊水池等監視カメラ設置】 7箇所から10箇所に増設した監視カメラ設置の遊水池等について、台風やゲリラ豪雨時の状態を早期に情報取得するよう遠隔からモニタリングする。</p>
拡充	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		下水道事業負担金	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目				
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	大塚 昌利
事務事業期間		平成28年度～	評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等				
事務事業の内容	事務事業の目的	地方公営企業は、経費の負担の原則により、その性質上地方公営企業の経営に伴う収入をもって充てる事が適当でない経費（雨水処理に要する経費等）については、一般会計等において負担するとされており、対象経費に対する負担金を支出することで、負担区分の適正化を図る。		
	事務事業の経緯	下水道事業においては、汚水処理と雨水処理の両方があり、雨水の排除や公共用水域の水質保全などは、雨水公費の原則により一般会計において負担するものとされている。 下水道事業への負担金は、総務省の繰出基準に基づき適切に算定している。		
	事務事業の概要	下水道事業では、汚水を処理する公共下水道と雨水を処理する一般管を有しており、河川等の水質改善及び生活環境の向上に寄与するために、適正な維持管理が必要となることから、下水道事業会計の負担区分の適正化を図るため、下水道事業会計への負担金（繰出金）を支出している。		
	令和2年度の主な取組	下水道事業会計の負担区分の適正化を図るため、下水道事業会計へ総務省の繰出基準に基づき適切に積算された負担金（繰出金）を支出した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.10	0.10
		人件費	798	806
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
		人件費	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00
	人件費	0	0	
人件費計		798	806	806
事業費	報酬※	0	0	0
	賃金※	0	0	0
	需用費	0	0	0
	委託料	0	0	0
	使用料及び賃借料	0	0	0
	工事請負費	0	0	0
	負担金、補助及び交付金	0	0	0
	扶助費	0	0	0
その他事業費※	0	0	0	
支出合計		798	806	806
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	0	0
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源		798	806	806
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		7	7	7

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	一般会計繰出金のうち企業の収入を充てるべき経費に対する繰出金の率		
	説明	一般会計より繰り出される繰出金において、国が一般会計で負担すべきと定める「繰出基準」を負担金（繰出金）の原則とすることにより、地方公営企業の経営健全化を図る指標とする。 ※この比率が0%である場合、企業収入に充てるべき経費の中に一般会計繰出金が充当されていないことから、経営の健全化が図られている。		
成果	単位	%		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	0	0	0
	実績値	0	0	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	総務省の繰出基準に基づき適切に積算された負担金（繰出金）を下水道事業会計へ支出したことにより、下水道事業会計の負担区分の適正化が図られた。
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	下水道事業では、汚水を処理する公共下水道と雨水を処理する一般管を有しており、河川等の水質改善及び生活環境の向上に寄与するために、適正に維持管理しなければならない。 今後においても下水道事業会計の負担区分の適正化を図るため、今後も下水道事業会計への負担金（繰出金）を支出していく必要がある。
中長期的方向性	
継続	